



就労継続支援 A 型事業所における地域連携活動実施状況報告書

事業所名	社会福祉法人一麦会ソーシャルファームもぎたて
住所	和歌山県紀の川市平野927
電話番号	0736-75-4603

事業所番号	3011700642
管理者名	中原 力哉
対象年度	2021年度

地域連携活動の概要

<p><活動内容></p> <p>活動場所：農業生産法人 新岡農園、ソーシャルファームもぎたて加工場</p> <p>実施日程：（製造）2021年度4月,8月,10月×2,1月,2月</p> <p>実施した生産活動：耕作放棄地を活用する柑橘ジャバラの6次化</p> <p>従事した実利用者数：5名</p>	<p><活動の様子></p> <p>商品写真「ジャバレード」</p> <p>↓ジャバラピールを丁寧に瓶詰め</p> 
<p><目的></p> <p>ソーシャルファームもぎたての拠点から5分強、和歌山県かつらぎ町にある新岡農園では、かつては柿やみかん畑が栽培されていた中山間地で、高齢化が進み、どんどん増えていく耕作放棄地を、ジャバラの畑に植え替えるプロジェクトを推進しています。ジャバラの果実、果汁を販売する中で、皮の商品化が課題となっていました。皮を利用した美味しいレシピはあるのに、加工をする場所がなかった為行き詰っていたそうです。そこで、耕作放棄地の活用や食品加工場のさらなる稼働時間の増加を目指していた「ソーシャルファームもぎたて」との協力がスタートしました。当初は、新岡農園さんから直接指導してもらい、ジャバラピールとジャバラマーマレード（商品名：ジャバレード）を受託製造することに。今では年10回ほど製造加工し、地域の新しい産品づくりに貢献しています。</p>	<p>↓95℃の状態を保ってジャバラの皮を砂糖と煮込む↓製造者は「ソーシャルファームもぎたて」</p> 
<p><成果></p> <p>今回の活動を通じて、障害のある仲間たちの加工技術や今までにないお菓子ができたことで新岡農園の6次化に貢献できました。また、ミッションが重なり合う団体の連携が評価を受けて、メディア掲載につながりました（例：公益財団法人 吉野川紀の川源流物語発行「水をめぐる物語」p22-23）。なくてはならない存在として、取引先である新岡農園に認められたことで、障害のある仲間たちは誇りを覚えることができています。製造方法は、地道に試行錯誤を繰り返して今の製造方法を確立してきたので、熱気のある作業環境とあいまって、「自分たちにしかできない」という自信になっています。課題としては、携わったメンバーが農産加工部の仲間に限られたことが挙げられます。今後は、飲食部門や農業部門においても地域の方々と携わり、自らの仕事を覚えてもらえる経験ができるように支援していきたいです。</p>	<p>◆活動コメント</p> <p>ジャバラ商品は2つの商品の受託加工を任されていますが、砂糖と混ぜ込むときの大鍋の温度は95度に達し、非常に労力がかかり、汗もかくので仲間たちは順番にかき混ぜています。その際、異物混入には細心の注意を払い、かき混ぜるたびに衣服に粘着ローラーをかけ、相互チェックをしてから作業に当たっています。他の加工品よりもとても多くの労力がかかりますが、商品になったときの達成感はひとしおです。</p>

連携先の企業等の意見または評価

2016年度からソーシャルファームもぎたてさんには「ジャバラマーマレード」と「ジャバラピール」の加工をお願いしています。私たちはかつらぎ町の耕作放棄地が高齢化によって広がっていくことに心を痛めてきました。そこで、ジャバラ畑に植え替えて、耕作放棄地を少しでも減らす努力を続けています。ジャバラ果実の生果販売だけでは持続的な栽培は難しいため、当初から加工品開発には力を入れてきました。なかでも皮が有効に利用されるためには、商品化が欠かせなかったため、私たちの開発したレシピで加工してもらえるソーシャルファームもぎたてさんとの出会いは大変重要なことでした。今後とも、大切なジャバラ商品加工のパートナーとしてよろしくお願ひします。

今後は、商品製造の際にさらに注意して検品していただき、少しでも商品の口スが無いようにお願ひします。

連携先企業名	農業生産法人 (有)新岡農園	担当者名	代表取締役 新岡敏美
--------	----------------	------	------------